

子宮頸がん検診を受ける方へ

◎視 診

子宮頸部に異常がないかを目視で調べます。

◎細胞診

子宮頸部の細胞を専用の柔らかいヘラなどで採取し、顕微鏡で調べます。

※子宮がん検診で100%子宮頸がんを発見できるわけではありません。

がんがあっても異常なしと判定されること（偽陰性）や、がんがなくても精密検査が必要となること（偽陽性）があります。

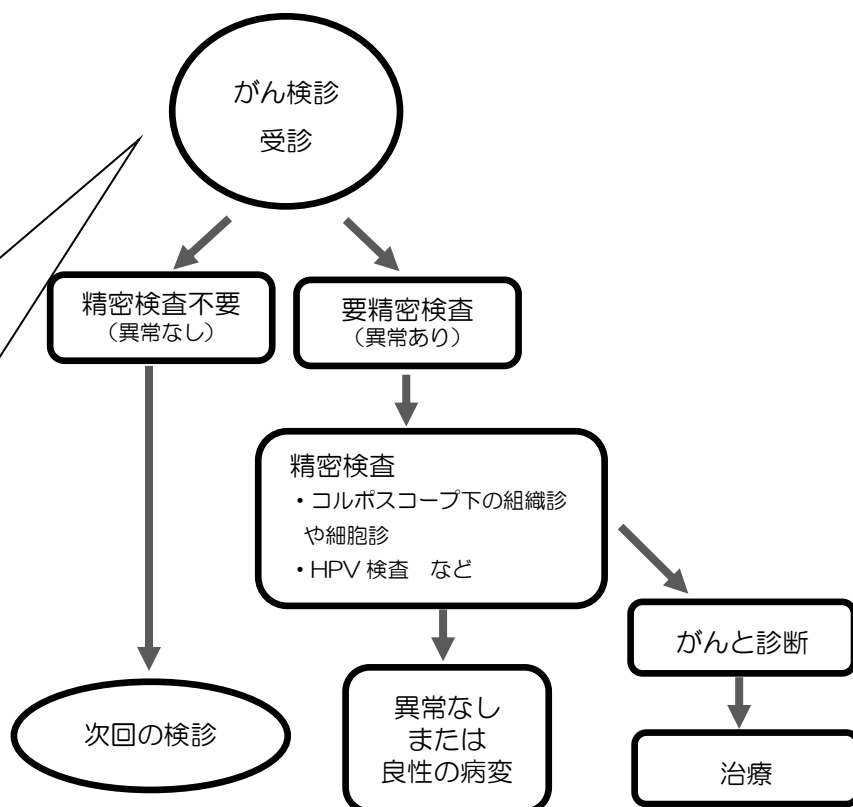


◎検診の流れ

対象：20歳以上の女性

※検診後の注意点

細胞採取時にわずかに出血することがありますが、ほとんどの場合、自然に止まります。出血が続く場合は医療機関にご相談ください。



◎精密検査について

子宮頸がん検診の結果、精密検査が必要になった場合は、必ず精密検査を受けてください。精密検査では、検診結果に基づいてHPV検査、コルポスコープ(腔拡大鏡診)下の組織診や細胞診などを組み合わせて実施します。

◎結果の通知について

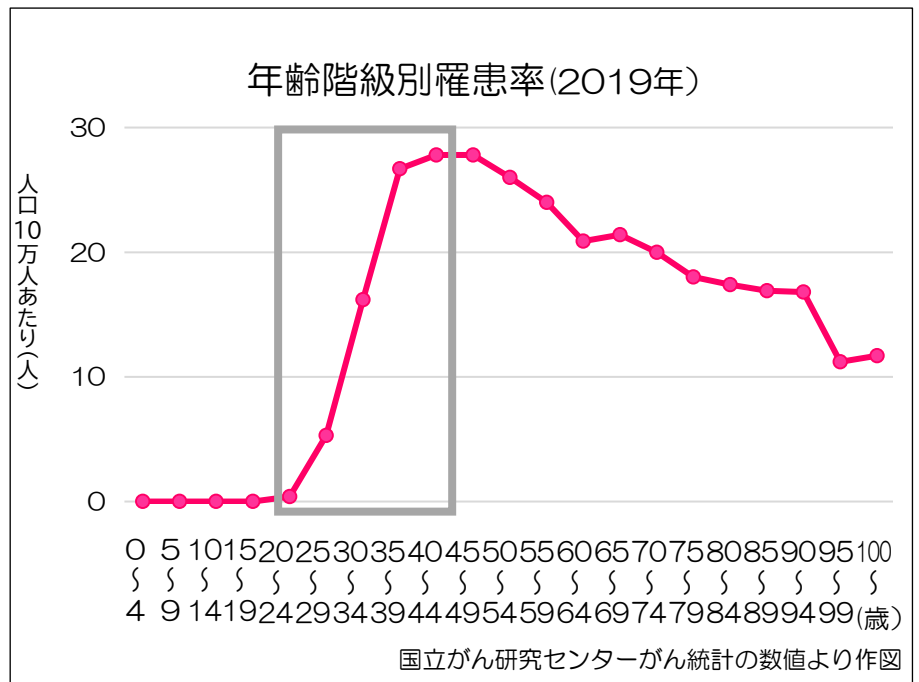
検診結果は、約1か月後に郵送いたします。精密検査が必要となった場合は、保健センターにて、病院あての精密検査依頼書をお渡しします。

裏面もご覧ください

子宮頸がんは20～30歳代で急増します

子宮頸がんの進行は一般的にゆるやかであり、前がん状態（がんになる前の状態）からがんになるのに2～3年かかると言われています。

また、無症状の早期がんを発見し、治療をすれば、手術する範囲は少なく、経過も予後も良くなります。



再検査（不適正）について

子宮頸がん検診では、子宮頸部の細胞を採取し、検査を実施します。採取した細胞が必要数に満たない場合は、判定ができず「再検査（不適正）」となります。その場合の受診方法について保健センターからお知らせいたします。

検診の精度を保つために

効果的で精度の高い検診を実施するためには、みなさまの検診結果を正確に把握する必要があり、ご本人や精密検査医療機関に検診結果の追跡調査を行う場合があります。検診結果は市で集計した後、国に報告し、有効性の評価などに用いられます。

一次検診及び精密検査に関する個人情報については、市民の健康向上を目的に、一次検診実施機関、精密検査実施機関と共有し、事後指導、受診勧奨などに使用することがあります。その際には、個人情報保護法等を遵守し、適正・厳格な取り扱いを行います。

2年に1回は検診を受けましょう！

子宮頸がん検診の受診間隔は2年度に1回です。定期的に検診を受けましょう。ただし、不正出血など自覚症状があるときは、すぐに専門医を受診しましょう。

四條畷市立保健センター (☎) 072-877-1231